

授業科目	コミュニティ心理学				単位	2		
履 修	選択	関連資格				ナンバリング	WE31417J	
開講年次	4年	開講時期	後期	該当DP	DP1-1 DP3-1			
担当教員	杉本 有紗							
授業概要	<p>コミュニティ心理学とは、1960年代に「個人の行動に社会体系が複雑に相互作用する形で関連している心理過程全般について研究を行うものである。この関連を概念的かつ実験的に明確化することによって、個人、集団、さらには社会体系を改善しようとする活動計画の基礎を提供するものである。」(Bennett et al.,1966)と定義されて始まった、比較的新しい心理学の一分野である。</p> <p>ここでは、コミュニティ心理学の理論的枠組み、基本概念などを概説し、日本における実践事例を取り上げ、コミュニティ心理学とそのアプローチの意義と課題について検討を進めていく。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<p>1. コミュニティ心理学の基本的発想、介入について説明できる。(DP1-1)</p> <p>2. 社会の福祉的課題に対する実践事例からコミュニティ心理学の意義と課題を考え、福祉専門職の視点から心理学的アプローチの利用のあり方に関心を向けることができる。(DP3-1)</p>							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	70	30	0	0	100	
知識・理解 (DP1-1)			40				40	
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)								
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)			30	30			60	
関心・意欲 (DP3-2)								
態度 (DP4-1)								
態度 (DP4-2)								
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
コミュニティ心理学とは何か、何を背景として生まれ発展してきたのか、何を目指しているかを整理して説明できる。 コミュニティ心理学の基本的発想を整理して説明できる。 社会の福祉的課題に対して心理学的アプローチを行う際の意義と課題を考え、福祉専門職の視点からの心理学的アプローチの利用のあり方について考察することができる。				コミュニティ心理学とは何か、何を背景として生まれ発展してきたのか、何を目指しているかを説明できる。 コミュニティ心理学の基本的発想を説明できる。 社会の福祉的課題に対して心理学的アプローチを行う際の意義と課題を考え、福祉専門職の視点からの心理学的アプローチの利用のあり方に関心を向けることができる。				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法	学習課題(予習・復習)		予習・復習時間(分)	

1	コミュニティ心理学とは何か① コミュニティの概念、コミュニティ心理学の定義について解説する。	講義	復習：該当部分の復習	30
2	コミュニティ心理学とは何か② コミュニティ心理学の理念、コミュニティ心理学と価値、コミュニティ心理学者の役割について解説する。	講義	復習：該当部分の復習	30
3	歴史的背景 精神保健革命、コミュニティ心理学誕生の背景、ポストン会議、欧米におけるコミュニティ心理学、日本におけるコミュニティ心理学について解説する。	講義	復習：該当部分の復習	30
4	コミュニティ心理学の基本的発想① ドーレンウェンドの「心理社会的ストレス・モデル」、人と環境の適合について解説する。	講義	復習：該当部分の復習	30
5	コミュニティ心理学の基本的発想② 生態学的発想、社会環境の重要性、生活者としての人間の捉え方について解説する。	講義	復習：該当部分の復習	30
6	コミュニティ心理学の基本的発想③ 発達・成長モデル、予防の重視、エンパワメントについて解説する。	講義	復習：該当部分の復習	30
7	コミュニティ心理学の基本的発想④ アドボカシー、地域中心主義、社会資源の活用について解説する。	講義	復習：該当部分の復習	30
8	コミュニティ心理学の基本的発想⑤ コラボレーション、サービス提供のあり方、多様性の尊重と代替物の選択について解説する。	講義	復習：該当部分の復習	30
9	コミュニティ心理学の基本的発想⑥ コミュニティ感覚、社会変革について解説する。	講義	復習：該当部分の復習	30
10	コミュニティへの介入① コンサルテーションについて解説する。	講義	復習：該当部分の復習	30
11	コミュニティへの介入② 危機介入について解説する。	講義	復習：該当部分の復習	30
12	コミュニティへの介入③ ストレスとコーピング、予防教育について解説する。	講義	復習：該当部分の復習	30
13	コミュニティへの介入④ ソーシャルサポート・ネットワーキング、メンタリング・プログラムについて解説する。	講義	復習：該当部分の復習	30
14	コミュニティへの介入⑤ セルフヘルプ・グループ、コミュニティ・カウンセリングについて解説する。	講義	復習：該当部分の復習	30
15	まとめ コミュニティ心理学の理念と展開についてディスカッションする。	講義 グループ討議	これまでの授業全体を復習しておく。	60
16				
17				
18				
19				
20				
21				

22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	発達心理学、福祉臨床心理学、障害者心理学等を受講していることが望ましい。			
テキスト	指定なし。必要に応じてプリントを配布する。			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	『コミュニティ心理学ハンドブック』日本コミュニティ心理学会編 東京大学出版会 『よくわかるコミュニティ心理学』植村勝彦・高島克子・箕口雅博・原裕視・久田満編 ミネルヴァ書房 その他、授業中に案内する。			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	上記のテーマに関する雑誌や新聞記事、インターネット、テレビのニュースやドキュメンタリーなどによる情報収集などを行い、社会の問題と心理学とのつながりへの理解を深めるとよい。			
達成度評価に関するコメント	「発表」には授業中の積極的な発言を含む。 レポート課題については、授業中に指示する。			